

展覧会概要

会期：2019年10月4日（金）～12月19日（木）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3

開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

※毎週金曜日は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）

休館日：第4週を除く月曜日

※10月14日（月・祝）、11月4日（月・振休）は開館。10月15日（火）、11月5日（火）は休館。

※会期中の毎月第4週曜日（10月28日、11月25日）はフリートークデーとして開館。

入館料：一般1,000円/高大生700円/小中生400円（団体20名様以上で200円割引）

※10月14日（月・祝）は創設者戸栗亨のメモリアルデーとして無料開館いたします。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

美術館概要

戸栗美術館は、創設者戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



展示解説

当館学芸員による展示解説を行います。

■第2・第4水曜 14:00～15:00
(10/9 10/23 11/13 11/27 12/11)

■第2・第4土曜 11:00～12:00
(10/12 10/26 11/9 11/23 12/14)

■予約不要
(入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください)

メモリアルデー

当館創設者戸栗亨を偲び、無料観覧日といたします。

■10月14日（月・祝）10:00～17:00

当館学芸員による展示解説も開催。

■11:00～12:00/14:00～15:00の2回

■予約不要（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

とぐりの学芸員講座

やきもの鑑賞をより楽しむための講座です。

■12月9日（月）14:00～15:40

「古伊万里のかたち—器種と装飾にみる—」

黒沢愛（ジェネラルマネージャー・学芸員）

■参加費1,000円（入館券を別途お求めください）

■先着40名様（要事前予約）

※題目等は変更する場合がございます。最新情報はHPをご参照くださいませ。

フリートークデー

展示室でお話をしながらご鑑賞いただける日です。

■毎月第4週曜日（10/28 11/25）

■10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

当日は30分間のミニ展示解説も開催。

■14:00～14:30

■予約不要

（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

読者プレゼント等への協力について

展覧会情報について掲載・放映いただける場合には、読者・視聴者の方へのプレゼントとして、招待券のご提供も承っております。お気軽にご相談くださいませ。

次回展示

『たのしうつくし 古伊万里のかたちII』

2020年1月7日（火）～3月22日（日）

二期に渡って古伊万里のかたちの魅力に迫る企画展『たのしうつくし 古伊万里のかたち』のうち、後期は皿や瓶、水注など、人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の作品を中心にご紹介いたします。



展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL: 03-3465-0070 FAX: 03-3467-9813

URL: <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail: kouhou@toguri-museum.or.jp



プレスリリース

たのしうつくし 古伊万里 のかたち I



会期

2019年10月4日（金）～12月19日（木）

やきものにあらわされた「たのしいかたち」

江戸時代、国内外の人々を魅了した伊万里焼には様々な「かたち」が見られます。二期に渡ってその魅力に迫る企画展『たのしうつくし 古伊万里のかたち』のうち、前期は動物や植物、器物などから着想を得た「たのしいかたち」の作品を中心にご紹介いたします。

動植物も器物も自由自在。

丸に四角、花、葉、瓢箪、鳥、兎、樽、団扇……。これらは古伊万里に見られるかたちの、ほんの一例です。

古伊万里とは、江戸時代に佐賀・有田で作られた磁器・伊万里焼のこと。17世紀初頭に日本初の国産磁器として誕生したもので、試行錯誤を重ね、半世紀ほどで成形や絵付けなどの技術が飛躍的に向上。19世紀に入るまで国産磁器シェアをほぼ独占するとともに、西欧を中心に海外へも輸出されました。

有田では、国内外からの需要に応えて、多種多様な磁器を焼造しました。皿や鉢、猪口、瓶、西欧向けにはティーポットやシュガーポット、ワインカップなどといった器種としてのバリエーションはもちろんのこと、装飾としてのかたちも充実しています。輶轆成形のみならず、土型を活用したり、彫り文様を施したり、絵付けと組み合わせたりと、技術を駆使して自由自在に様々なかたちを生み出しました。

二期に渡って古伊万里のかたちの魅力に迫る企画展『たのしいかたち』のうち、前期にあたる今展では、動物や植物、器物などから着想を得て作られた「たのしいかたち」の作品を中心に、約100点を展示いたします。

《展覧会紹介文》どうぞご活用ください。

■23word

「たのしいかたち」の古伊万里約100点を展覧。

■50word

魚や鶏、花、樽など、動物や植物、器物を表現した「たのしいかたち」の古伊万里を紹介。約100点を出展。

■101word

江戸時代、国内外の人々を魅了した伊万里焼には様々なかたちが見られます。魚や花、樽など、動植物や器物から着想を得、輶轆や土型などの成形技術を駆使して表現された「たのしいかたち」の古伊万里約100点を出展。

《動物や植物をかたどる》

輶轆(ろくろ)成形を基本とする伊万里焼では円形・球形が中心ですが、葉や花、魚、人形、鳥などといった造形の作例も残ります。手びねりや型、絵付けを活用してあらわされた「かたち」からは、職人の技と、国内外の需要者たちの造形に対する強い美意識が感じられます。



①青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿

伊万里 江戸時代 (17世紀後半)

口径 28.0 cm

②染付 魚形皿

伊万里 江戸時代 (17世紀中期)

口径 16.6 × 13.2 cm

③色絵 花卉文 輪花皿

伊万里 (古九谷様式)

江戸時代 (17世紀中期) 口径 16.1 cm

葉

輶轆(ろくろ)と手びねりによって自然で柔らかな葉の質感をあらわす。右端には可愛らしい葉柄も。

魚

型と絵付けを活用した秀逸なデザイン。魚のかたちや表情のバリエーションも様々。



人

江戸時代中期の美人像。華奢な手指や滑らかな着物の質感がみどころ。

人

江戸時代中期の美人像。華奢な手指や滑らかな着物の質感がみどころ。



④色絵 婦人像

伊万里 (柿右衛門様式)

江戸時代 (17世紀後半)

高 39.2 cm

↓色絵 鶏置物

伊万里 (柿右衛門様式)

江戸時代 (17世紀後半)

高 27.5 cm

鶏

時を告げる雄姿を再現。鶏冠や脚、台座の質感にも工夫が。



花

山形の10枚の花弁が珍しい花形の皿。見込周囲の黄色の唐草文もポイント。

④

《器物をかたどる》

土器や陶器など他のやきものの土に比べて扱いにくいとされる磁土。17世紀初頭に誕生した日本初の国産磁器である伊万里焼では様々な技術を取り入れて、造形の幅を広げました。中には、複雑にパーツを組み合わせたり、陰陽刻や貼花を施したりして、漆器や木器、金属器など、他の素材でできた生活道具を再現したものも。あそび心溢れる古伊万里をご紹介いたします。



樽

江戸の祝い酒容器と言えば角樽(つのだる)。定番の黒や朱の漆に対して、あえて白と青の染付けが粋な趣。

⑤染付 唐子文 角樽形瓶

伊万里

江戸時代 (17世紀後半) 高 27.0 cm

→色絵 寿字花唐草文 樽形水注

伊万里

江戸時代 (18世紀前半) 高 18.0 cm



樽

こちらも樽形。板の合わせ目やタガも凹凸で見事に表現。

まだまだあります！ たのしいかたち。



染付 山水文 蓋付鉢 伊万里

江戸時代 (17世紀後半)

通高 33.2 cm



瑠璃銹釉 花鳥透彫文 香炉

伊万里 江戸時代 (17世紀後半)

通高 8.1 cm



縦細レリーフ